

〔川崎医療福祉学会ニュース〕

川崎医療福祉学会 第9回 研究集会プログラム

平成7年11月29日

1. 新しい時代に対応する情報教育の提案

— 情報革命の流れのなかで —

川崎医療福祉大学	医療情報学科	* 八木 英俊
川崎医科大学	附属病院総合診療部	津田 司
川崎医科大学	附属病院病院病理部	真鍋 俊明
川崎医療福祉大学	医療情報学科	上田 智 藤原 忠男

2. 目的意識高揚のための学生指導の実践

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学科 * 古米 幸好 井上 桂子

3. わが国におけるハンセン病医療の現況

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 近藤 功行

4. 健康づくりと住民主体

— 高知県西土佐村の活動から —

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 宮原 伸二

* 印：発表者

講演

物と心を追いつけて

川崎医療福祉大学 臨床栄養学科 日下 喬史

新しい時代に対応する情報教育の提案

— 情報革命の流れのなかで —

八木 英俊¹⁾, 津田 司²⁾, 真鍋 俊明³⁾, 上田 智¹⁾, 藤原 忠男¹⁾川崎医療福祉大学医療情報学科¹⁾, 川崎医科大学附属病院総合診療部²⁾川崎医科大学附属病院病院病理部³⁾

現在アメリカにおける大学教育では、学内LANを活用してネットワークを用いての教育が実践されている。産業界もウェアハウスの活用が進行しており、時間、距離、空間の縮小が現実のものとなりつつある。これらの現象を情報革命と呼んでいる。本学における教育も学内LANおよびインターネットを利用してデータベ

ースを教員、学生が共有し、新しい教育の実践が可能となる教育環境が整備されて来た。学生主導型教育に基づくグループ学習を主軸として新しい教育方法を提案した。

目的意識高揚のための学生指導の実践

リハビリテーション学科 古米 幸好 井上 桂子

リハビリテーション学科では、今日一般的に認識されている大学教育の方法の域を越えて、目的意識高揚のための学生指導を特別に行っています。リハ学科の第1期入学生には、特別な指導を必要とする要因が多く存在しています。

それらの要因を列挙し、各要因を分析した結果を報告すると共に、合わせて現在行っている指導内容を紹介してご助言を仰ぎ、さらに有意義な学生指導方法を模索することを目的として発表しました。

わが国のハンセン病医療の現況

医療福祉学科 近藤 功行

感染症疾患であるハンセン病は神経の病気である。神経内科の発想がなかった時代、皮膚科領域の医師がほとんどであった。現在、全国に国立13、私立2の療養所がある。入園者の人口動態を1990年と1995年で比較してみると、国立12（青森～奄美）の施設では平均15.5%、沖縄

2施設では平均8.5%、私立2施設では平均18%の減少がみられた。ハンセン病の蔓延地帯であった沖縄に依然高い%の残存が、また、私立療養所の減少がうかがえた。療養所の現況を分析報告した。

健康づくりと住民主体

一 高知県西土佐村の活動から 一

医療福祉学科 宮原 伸二

健康づくりとは「人々がより人間らしく生きるための総合的な支援」であり、住民主体とは「それぞれの住民が力に応じて自主的な活動すること」という理念で活動している西土佐村の健康づくり運動を紹介した。

今、多くの市町村では健康づくり運動の目的が、検診や生活改善の実践といった「何をする

か」ということが目的になっているが、それは、健康づくりの手段であり目的でないことを指摘。健康づくりは「何のためにするか」、それは健康で豊かな社会を築くことという、地域づくり型健康づくりの大切さを具体例でもって示し、結論とした。

講演：「物と心を追い続けて」

臨床栄養学科 日下 喬史

表題の「物」とは生(命)体を物質的な対象として扱う生化学のことであり「心」との対照語として用いた。

大学を卒業して現在まで丸45年を主として物を追うことにエネルギーの大半を費して来たが、その間「人の心とは如何なるものか？」と

自問し続けて来た。来年4月から川崎医福大の常勤を辞めるのを機会に心の探究に専念したいと考え、カウンセリングの勉強を始めた。そのお蔭で自分が何故、心に興味を持つのか判って来た様である。